
シリーズテレビ局【ギャグな番組へ】

度辺 彩番

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シリーズテレビ局【ギャグな番組へ】

【Nコード】

N2933Z

【作者名】

度辺 彩番

【あらすじ】

シリーズテレビ局で働く10歳天才子役『横宮なうる』。

ある日先輩の『星神ルルア』に呼ばれて『ギャグなシリーズ』こと『ギャグシリ』に出演することになった！

有名司会者『星神ルルア』、イケメンなオカマ『萌川ノエリ』、顔はそっくりなのに性格は180°逆の双子『ラウミ』『カウミ』、まったく笑えない芸人『山海安土』、とっても突っ込みの激しい『金南ナセル』

そして、ギャグシリの新入り『横宮なうる』。

なつると愉快的な6人のバカ騒ぎをご覧ください!!

1 お呼び出し。てか、なんで？

ここはシリーズテレビ局。

沢山の人が今日もここで働いている。

その沢山の中には私『横宮なうる』も入る。

そして今、私はこのテレビ局の有名司会者『星神ルルア』待ち合わせをしている。

「キミがなうるちゃんだね？」

よくテレビでみるよ。天才子役はすごいね。」

そう私はこのシリーズテレビ局の天才子役。

わずか5才からデビューし、今の10歳までずっとこの仕事をやっている。

そして彼女は『星神ルルア』。現在十五歳。

このテレビ局の有名司会者だが、自分からも他の人と一緒にゲームに挑んでいくことでも有名。

「はい。私もよく見えています。」

素早く手を出し握手。

「いきなり呼びだして御免ね。」

私は昨日、彼女に手紙で呼ばれたのだ。

けれど、手紙にはなぜ呼んだのか分かる理由が書かれていなかった。だから私は何で呼ばれたのか知らない。

「じゃあついてきて。」

彼女についていく。

「で、なづるちゃん。」

「なづるでいいです。」

相手は年上。しかも先輩だ。
呼び捨てがいいだろう。

「そうか。じゃあ僕のことルルアでよろしく。」

「…。わかりました。」

『ルルアでいい。』と言ったのには少し驚いた。

「さあ、着いたよ。」

着いたところはスタジオ7。
何でこんなところに…。

「入って。」

入ってみるとそこは暗い中に『ギャグなシリーズ』という番組のセットがあった。

な、

『金南ナセル』。

「ねえねえ。怒っているならラウミのことぶっぱたいてえ〜？」

「俺様がはたいてやるしい〜」

パチンっといういい音が響く。痛そうだ。

ちなみに彼らは双子でドmのほう姉の『ラウミ』。
ドsのほうが弟の『カウミ』。

「くつくつ。俺のネタくらいかわいい子だぜ。」

彼はまったく面白くないことで逆に売ってしまった芸人の『山海安士』。

「けなしてます？」

「なんでそうなるの?!」

「あら。ホントかわいい子？お嬢さんにしたいくらい」

いや、嫁の間違いだろう。

ちなみにこの人はイケメンなオカマの『萌川ノエリ』。

「ほらなつる自己紹介。」

「あー！はい。横宮なつるです。
宜しく願います。」

周りから盛大な拍手がおこる。

「みんな！これからはこの横宮なづるが番組レギュラーだよ！
じゃあ、明日もお楽しみに」

スタッフのほうから「おっ」と声があがった。

3・迷子の迷子の西島さん

よかった。放送が終わったよ。…って！

「明日!？」

「そうだよ」

学校のこともあるし、家の人も知らないのは…

「ちなみに二日前になつるの両親に許可を取ったから安心して。」

知らなくなかった。

こんど親について家族会議を…

いや、もう今日しようか。

「なつるちゃんー！ー！帰りますよー！」

今、私を呼んだのはマネージャーの『西島古葉』さん。

美人でいい人なのだが、マイペースすぎてよくトラブルをおこす。

「はーい。」

そう言つて西島さんの車に乗り込む。

エンジンがかかり車が動き出す。

「そうそう。『ギャグシリ』の制服は、家に送っておいたから。確認してね。」

「はい。わかりました。」

「その制服だけど、萌川さんがデザインしたみたい。明日会ったつらお礼をお言っておいてね。」

萌川さんは意外にデザイナーとしても名をはせているらしい。

「あら、この道路混んでいるわね。」

でした。西島さんのドジが。

「そこの左をまがるとはやいですよ?」

「あら。そうなの? ありがとう」

こういうミスはよくあるので慣れた。

カーナビを見て答えたただけだね…。

曲がって、またすぐにまた左に曲がる。またミスだつ…

「どうしましょう。」

クラクションの嵐になっちゃったわ…」

どうやら一方通行を逆に入って行ったらしい。焦って車を出す。

「あれえ〜? ここどこお〜?」

次には迷子だ。

「カーナビを見てください。」

「ああ。ここね。よーしいくわよー！」

本当にこの人は大人なのだろうか…。
そして走ること十分。

「ほら、ついたわ。じゃあなづるちゃんまた明日」

「はい。じゃあ」

4・ドアは開けるときは蹴って、閉めるときは鍵で厳重に…

車から降りて家の中に入る。

「ただいまーっ！」

誰もいない。

あつても親はいるか。
って親と言えば…。

ベッドルームに向かってダッシュ。
バンッと音を立ててドアを蹴り開ける。

「あら。なつるお帰りなさい。

蹴ってドアを開けるのはよくないわよ？」

「ママの言うとうりだ、

早く謝りなさい。」

あんたらに言われる筋合いないし。

だけど今はそんなこと言っている場合じゃない。

「ねえ！ギャグシリに出演ってどういうこと！？」

「あー！。私たち許可したけど？」

「何やってんの？！」

「服はなつるの部屋だぞ。さあ。」

訳の分からないまま追い出された。

まあ、部屋行くか。

ドアを開け中に入り鍵を厳重にかけてベッドにダイブ。

「はあーーーーー」。

起き上って机の上の制服を取る。

入っていたのは『黒のシャツ』、『紫のサロペット風(?)のスカーツ』、『黒のフリルの付いた靴下』、『青いどくろの付いたリボンの髪飾り』。

と…男の子用の制服？

「なんで…」。

落ち着けなうる。これは多分私のじゃない。

少しサイズが大きいし。

そうか。これを贈ったのは他でもない西島さんだ。

またドジッたのだろう。

よし、メールだ。

「えっと…」

『こんばんわ。夜遅くにすみません。』

届いた制服ですが男の子用の制服も入っていました。

明日、持っていきます。』

「送信と…」

送信完了だ。

これでOKのはずだ。

よし、ご飯を食べ、お風呂に入り寝ようか。

4 ドアは開けるときは蹴って、閉めるときは鍵で厳重に…（後書き）

これからも彩番頑張るらしいから
宜しくね

byなづる

5 ・ライスではなく麺でしょ？オムライスには。

机の上にママが作ったと思われる夕飯があった。

「いただきまーっす！」

夕飯の近くに今日のメニューが書かれたメモがあった。
そのメモにはこう書いてある。

『今日のメニュー

・オムライス

・サラダ

・トマトスープ』

らしいのだが…

私には間違っていると思う。
簡単に言つと

・オムライス 〃ライスではなく麺。ケチャップではなくマヨネーズ。
〃オムライスではない。

・サラダ 〃材料と思われるものは茄子、苺、チョコレート。
ドレッシングにホイップクリーム〃この組み合わせはしてはいけなもの。

・トマトスープ 〃トマトの缶を開けただけ〃冷凍物のほうがいい。

ママのところへ夕食を持ってダッシュ。

ドア蹴り開け中に入る。

「あら？美味しい夕食持ってどうしたの？」

「これのどこが美味しいっていうの?!」

「うーん?すべてかな。」

ママの舌は完璧狂っているだろう。

「どれもメニューどおりになってないよ!」

「あー。オムライス御免ね。ご飯炊き忘れちゃった。」

「ライスじゃないよ!オムライスだけじゃないし!」

サラダとトマトスープも色々だめだと思う。

「もう!だったらママの夕飯のコンビニの Pasta 食べなさい。
これはママ食べるから。」

「言われなくてもそうするよ!」

部屋を出て蹴って閉める。

たしかパスタは冷蔵庫にあったはずだ。
じゃあ向かうはキッチンだ。
キッチンヘダッシュ。

「……………」

そりゃあの料理(?)を作っていればこんくらい汚くなるだろうな
…。

フライパンは何かこべり付いてるし、道具は散乱してるし、すべて

そのままだ。

今日はだけでは整理するのは大変だから明日にしよう。

どうせ今日は誰もやらないし。

パスタを持って部屋に行く。

中に入り鍵を厳重にかける。パスタを食べるうん、普通に美味しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2933z/>

シリーズテレビ局【ギャグな番組へ】

2011年12月18日11時47分発行